
付 録

ヒマラヤ通信

第一信 8月30日 ニューデリー出発

実行委員会の皆様、本隊出発まで色々とお難うございました。予定通り8月24日全員無事デリーに到着し、入山準備に忙しい毎日を送っております。

同じファブランの登山許可の下りにいる滋賀岳連隊も8月25日にデリーに到着し、毎日この事態処理について話し合っておりましたが、同じ山を2パーティーが登ることは好ましくない状態と考え、IMF会長のサリーン氏の力で他の山の登山許可が下りるかどうかが尋ねることにしました。ただお互いにメンバー全員が到着し、しかもLOも到着している（我々のLOは道路破損の為この時点では到着していなかったが）状態で長い期間待つ訳にもいかない為に、この期限は一週間と考えております。8月27日にサリーン氏に面会し、この件を尋ねたところ、やはりサリーン氏でも一週間以内に他の山の許可は下ろすことが出来ないとの返事でしたので、その後滋賀岳連隊と話し合いを行ない、結局滋賀岳連隊はミヤール・ナラからファブランをアタックし、我々は6109m無名峰を経てファブランをアタックすることで合意に達しました。

しかし、これは実際には6109m峰とファブランはかなりの距離がありここからファブランを落すのは不可能ですので、我々は6109mをアタックすることになります。

8月28日にIMFのチャトリッジ氏へ双方LOを伴ない、この詳細な計画書を提出し、彼の前でルート図により、双方のルートを説明して受理されましたので、我々は6109mの登頂に全力をあげます。本隊出発まで色々とお心配をかけ、又ここで目的の山の変更と心苦しいのですが、こういう事態故を御許し願いたいと思います。

又井口と増子は昨日（8/29）荷物及び滋賀岳連隊の荷物と一緒にトラックにてマナリに発ちました。那須とLOは9月1日にシムラ経由で（マハジャン氏に挨拶の為）マナリに向う予定です。私はビザがこちらの外務省のミスで遅れておりますので、又今のところはっきりとした予定は立ちませんが9月4日頃にはデリーを立てると思います。その後の日程は同封の日程表に従います。

又当地にてLOの保険を掛けることが不可能ですので、OBの北村が現役の堀内に連絡し日本にてLOの保険を掛けて下さい詳しいことは両名が知っております。

保険金額 100万円

保険の種類 死亡及び傷害（ただし登山行為の特約付）

名前 Om Parkash Sharma

住所 c/o K.D. Sharma

“ Sharma 住所 ”

仕事 Service Government

受取人 Mrs. Prabha Sharma

72.8.30 デリーにて F.Otake ト

日程表(これは IMF に提出した日程表と同じものである)

1972, August 24, Arrive at New Delhi
 29, Leave New Delhi (2persons Iguchi, Masuko)
 31, Arrive at New Delhi (Iguchi, Masuko)
 Septembe 1, Leave New Delhi (Nasu, Liaison officer)
 Arrive at simla (")
 2, Leave Simla (")
 Arrive at Manali (")
 4, Leave New Delhi (Otake)
 5, Arrive at Manali (")
 10, Leave Manali
 15, Arrive at Thiroth
 17, Establish base camp at Thiroth Nullah and Stat for
 climbing the Mt. Nameless peak (6109m)
 22, Establish camp 1
 28, Establish camp on the south Ridge of the
 Nameless Peak
 October 6, Establish camp 3
 11, Reach to the summit of Mt. Nameless peak
 17, Reach to base camp
 19, Leave base camp
 21, Arrive at Thiroth
 22, Leave Thiroth
 27, Arrive at Manali
 ,
 Novembev 1, Arrive at New Delhi

8, Leave New Delhi

Arrive at Haneda Airport in Tokyo, Japan.

第二信 9月7日 マナリ発

東京はまだ残暑が厳しいことと思います。当地マナリは流石にデリーより格段に涼しく、朝・夕は登山用のユニホームを引っ張り出して着ております。私のビザはL O・が色々と骨を折ってくれ思っていたより早く8月31日に出ましたので9月2日那須とL Oと共にシムラへ寄り、マナリに着きました。

明日(9月8日)はいよいよ山へ入ります。ケロンまでバスが有り、その先のティロットまでも車が入れるとのことなので、9月10日頃にはティロットに着くと思います。今日荷物は一足先にシェルパ2名を付けて、トラックでティロットまで送りました。シェルパはワンギャルとダルマチャンドウの2名です。予定ではシェルパなしのコック1名でしたが、ティロット・ナラへ入ったことのあるワンギャルを連れて行くことにしました。ダルマチャンドウはコックですが、ここではシェルパもコックも身分、技術の違いはない様です。リエゾン・オフィサーのシャルマという人物は体ががっちりしており、一見取付きにくそうですが、我々の為に色々と骨を折ってくれ、隊員一同好感を持っております。山も少し登ったことがある様で、上に上がりたい様子ですので、状況によりC 2位まで連れて行くかも知れません。

またロータン・パスは10月15日で閉鎖されるとのことですので、それ位をメドにマナリに戻るつもりでおります。しかしこの閉鎖とはバスがストップするというだけで歩けば通ることも可能です。又15日というのもシェルパはオフィシャルということ、言っておりますので、これはどうやら雪が積もれば、それでストップすることらしいです。

全員の体調は皆決調ですので御心配なく、もっとも今から不調ではどうしようもありませんが、これからは皆無事に日本に帰ることを第一に考えて行動して行きたいと思っております。大変短かい手紙ですが、皆様によろしく。

72、9、7 マナリにて

F・O t a k e

第三信 9月9日 ケロン発

先日マナリからの手紙着きましたか。マナリが最終の郵便局かと思っておりましたが、ここケロンにも郵便局があり、又先のティロットでも出すことが可能だと分かり、少々調子が狂っております。マナリからケロンまでは10時間位ですが、我々が出発した時は、ガケ崩れがあり2～3時間バスが止まっていたので、ここケロンには6

時頃着きました。我々はIMFのパーミッションを持っていますが、そのパーミッションだけではこの辺のチェックポストは通してくれません。現地警察のパーミッションが別に必要ですので大変です。クルで、ここケロンまでのパーミッションをもらい、ケロンで又テイロットまでのパーミッションをもらうという、誠にややこしい手続が必要な為、今回の様に、昨日の6時頃バスが着くと警察は閉っていますし、テイロット行のバスが出る9時までには開かないということで結局一日ここで余計に泊るハメになってしまいます。

ここケロンは高度3000mの為、少々登り降りするだけで息が切れます。昨日越えたロータンパスは4000mありますが、別に自分の足で歩いた訳ではありませんので、高度障害等は全くありませんでした。ここでも少々腹がおかしい他は全員元気です。村の周りには雪を戴いた峰や氷河が見え、いくらかヒマヤラの様相を呈しております。ロータンパスのマナリ側は木が繁り青々としておりましたが、こちら側は、木々はほとんどなく、荒涼としており、頂度アフガンの山の様です。 以上大嶽記

今だに下痢を起さず、日本にいる時より調子は好調です。食費はデリー、シムラ、マナリの1人大体10ルピーに位べ、ケロンは2人で8ルピーと非常に安く、人も良いようです。また、チャイも安く1杯25~30パイサとこれまた安く、20~50ルピーも持っていると言持のような気分です。

P S まわりの人は皆、北村さんのようで非常に親しめます。 以上文責那須

ロータンパスを越すと景色は一新して、とても埃ばいパノラマが目に入って来ました。この目でヒマヤラの山々を追いましたが、残念ながら4000m以上は雲におおわれ山の下部だけしか見えませんでした。それでも雲の切れ間に6000m以上の山が少しの雪をたくわえ光っており、狭いバスの中できょろきょろと頭を回し、山らしい山を追いましたが、今だに興奮する景色を見ておりません。現在はケロンに居ますが回りの山が実際は5500以上と思われませんが、心の中でこの山はまだ4000m未満の山であったらなあと思っております。早く雪の上に行きたいです。下痢もせず元気です。

増子

昨日ロ - タンパスを越えた瞬間から山に登りに来たなという気持ちが初めてしましたマナリ以南では大した景色もありませんでしたが、昨日からあっちこっちとキヨロキヨロしています。ラホールの山やシャカルベの北面の壁やわずかに谷の奥に見た純白のヒラヤラヒダの屏風にコウフンしました。ラホールの山はカサカサですが、チャーヤンバの山の北面はまったく絶望的です。しかしここケロンまでの道で見た景色はまだ

序の口だと思い、明日からのティロット谷を楽しみにしています。ただ贅沢を言えば自動車道路が発達して来て景色もあつと言う間に過ぎ去ってしまい、チョットもったいない感じもします。

明日見る山に胸をワクワクさせつつ辺境の地ケロンより 井口

第四信 9月10日 カムリン発

現在ティロットの近くのカムリンとう村に居ます。ティロットからティロット・ナラへは入れず（ゴルジュの為）この村からキャラバンを開始します。この村からトラバースぎみに登りティロット・ナラと合流するとのことです。この村もティロットも大変小さな村の為ポーターの都合がつかず、昨日ケロンの近くの村までポニーを都合しにワンギヤルが行っております。ポニーが到着するのは明日9月11日になるのでキャラバンは12日にスタートします。ポニーにした理由はポーターの都合が困難ですし、ポニーの方が安い為です。ポニーは70kgを運び一頭10ルピーで、ポーターは25kgで10ルピーですから、かなり安くなる訳です。それに人が多いとそれだけ心配の種がふえますし。

リエゾンのシャルマも先日お知らせいたしましたように、色々とよくしてくれま
す。シェルパのワンギヤルとダルマチャンドウも現地事情に詳しく、2人で仲良くや
っており助かっております。このカムリンという村は山にへばり付いていますので対
岸の壁しか見えず、目指す6109m峰はもちん、雪峰もほとんど見えず、少々気抜け
しております。

今、ポニーを都合に行ったワンギヤルが戻り、13頭のポニーが明朝10時頃到着す
るとのことですので、明日口頃には出発出来そうです。これで1ヶ月程便りが跡絶え
ると思いますが、もし羊飼いが上って来る様なことがあれば彼等に手紙を託します。

LOと我々のルートについて話し合いましたが、LOは何故直接ファブランに登ら
ず、わざわざ6109m峰を経由して登るのかと言ってきましたが、我々はピーク・ツ
ー・ピークを目指しているのです、たとえファブランに登れなくても6109m峰を経由
して登るといふ理由にして、彼に伝えたところ、一応了解してくれました。これで今
まで一番の悩みの種（LOが何か言うのではという不安）が取れましたので、皆胸を
撫でおろしております。明日はキャラバンの用意の為朝早い故これにて失礼いたしま
す。

72・9・10 カムリンにて 大嶽

第五信 9月13日 BC発

先日カムリンより出した手紙には9月11日にキャラバン出発予定と書いてあると思いますが、実際にはポニーが来たのは11日の3時過ぎでしたので、今日(12日)早朝出発し、今日は高度3400mのテイロット・ナラに泊っております。シェルパの話では明日はBCに着くとのことで、ポニーが帰る時にこの手紙を託そうと思い書いている次第です。まだファブランも目指す6109m峰も見えず、氷河にも達しておりません。周りはガラガラの岩山ばかりで、時折雪峰が見え隠れしております。雨がほとんど降らない為カサカサに乾いており、ポニーや人間が通ると砂埃りが舞って、体中埃りまみれになってしまいます。キャラバンはポニー13頭にほとんどの荷を背負わせ、我々は空身ですが、平らな所では付いて行くのに苦労しております。道幅の狭い所は、ポニーの荷を下し、人間が背負って通過し、又ポニーに荷を付ける為に時間がかかります。今日は雨が降らないと決めつけ、天幕を張らずに星空を見ながら寝ております。

高度障害はほんの少し頭が痛い程度で別状はありません、もっともこの高度は富士山で経験済みですから、当たり前ですが。今日最後の部落で羊2頭を買って来ました。2頭で280ルピーでしたので少々足元を見られた様です。しかしそれより羊が嫌がって、仲々歩かないのには閉口しております。心死で抵抗するのを見ていると、可愛想で、このまま返してあげたい気持ちにさえなってます 以上 12日記

今日はBCに到着しました。BCはエンド・モレーンの下に張っております。もう少し上がりたいのですが、**ガレー場**をポニーが登れないというので仕方なく、ここに張った次第です。まだファブランも6109m峰も見えませんが、BCは草の生えている台地に張っておりますが、水は氷河から流れ出る水しかなく、灰色で1時間置いた位では全然変わらず、脱脂綿で濾してもだめなので、諦めて、そんな水を飲んでいきます。又高度は3950mですが、流石にこの高度になると、動かなければいいのですが、少し動き回ると、頭がガンガンしてきます。明日になれば少しは慣れてくると思いますが。明日は荷物の整理をして、明後日より偵察を開始したいと思います。

シェルパのワンギャルもダルマチャンドゥも良く働きますが、ダルマチャンドゥ(22才)は若いので、少し現代っ子的なところがありますが、ワンギャル(40才・自分でも分らないという)はもうこの職業に徹しきっております。食べ物も粗食ですし、着ている物も実に質素ですが、そんなことは考えてもいない様に、いつもこまめに働き、何事にも「サーブOK・OK」と笑っているのを見ていると、粗僕な人間の良さをしみじみ感じております。

全員、これからの山行活動に胸をふくらませながらペンを置きます

9月13日 BCにて

第六信 10月3日 ナンガール発

東京はいかがですか。登山活動に入ってから半月以上過ぎ、皆髭を剃らないのでそろそろ山男らしくなって来ております。

目的の6109m 峰は後600m の所でLOにストップさせられてしまい、全く残念ですが登頂をあきらめました。あと1日か2日あれば確実に登頂出来たのですが。その理由は立入禁止区域内だということです。先日ニューデリーより出した手紙で、我々はファブランに縦走することにして、6109m 峰を試みる許画書をIMFに出していますが、これが通じなかった様です。今下の村に下りる者がいて持たせて書いております故、後程詳しい事情をお知らせいたします。

今日10月3日はナンガールという、ティロット・ナラ最奥の部落におり、これからは、シリ・ナラよりファブランへ向います。結局ファブランへ2隊が登る結果になってしまいましたが、滋賀岳連隊より約1ヶ月遅い為に、一つの山へ2隊が同時に登る危険性はなくなっていると思います。登山期間は約15日とし、この期間内で可能な限りアタックを試みます。これはモンスーンや我々の滞在許可(例の警察のパーミッションは期限をきられている)等から検討した結果です。マナリに帰るのは10月25日位になると思います。

隊員は全員元気でピンピンしております。ただ病気と言えば刺身が喰いたいの、まぜ御飯が喰いたいのと言う位です。流石に5600m付近に最初に行った時は高度障害で食欲がなくなった時もありましたが、今は高度にもなれ、又、下に下りて来たこともあり、皆驚く程食欲があり、恐しい程です。

今は足りないものも、問題点もありませんので御心配なく、大変短い時間にて何も書けませんが、ともかく皆元気でやっております。

10月3日 ナンガール村にて

第七信 10月20日 マナリ発

皆様いかがお過ごしですか。山へ入っている時は連絡が取れなかった為に何かと御心配いただいたことと思います。

9月13日に最初のBCを設営し、ティロット・ナラ最奥の6109m 峰へアタックを開始し、C2を9月23日に建設、C3は不用とし、頂上とC2との高度差は約900m、その内C2よりコルまでの約300mフィックスを張り登頂体勢に入る為にC1に集結したところ、トランシーバーのパーミッションの件でケロンに戻っていたLOがC1上がって来て、ここは外国人立入制限区域内である故このまま活動を続けるのは好ま

しくないとの注意があり、その後、丸一日のディスカッションの後、我々はナンガール村よりファブランをアタックすることに決定いたしました。もちろんこの時我々のIMFに提出した計画書や、担当官のチャドリッジ氏やそこに同席していた当のLOにもこの6109m峰を經由するルートを示してあった旨を伝えましたが、それはこの地域が外国人立入制限区域内であることを知らなかった為であり、それが判明した今は好ましくないとの意見でした。又この時LOは、何も書かないで。何も言わないなら、登頂しても良いと条件付活動を許してくれましたが、我々は報告書を発行する義務があるとの判断で、最終的には、この6109m峰を去った次第です。

10月初めナンガールに戻り、村のすぐ横の沢(シリナラ)よりファブランを目指すべくポーターにより4150mにBCを設営、10月6日C1建設ここで悪天候と我々の滞在パーミッション延長手続の返事を待つなどで少々時間を費しましたが11日にC2建設。翌13日C3建設と共にアタック隊員がC3に入り、13日C3より増子、井口がファブランを目差し、午後2時ファブランの最南峰に立ちました。そこからメインピークまでは、わずかの距離でしたが、時間が遅く帰りのルートに不安があった為、これより引返し、C3には8時に戻りました。同じ日大嶽、那須、ワンギャルの3人はサポートにC2よりC3に向い、これより大嶽、ワンギャルは現地人がシリ・バルバットと呼ぶ山へファブランと同時に登頂しました。この山の高度はC3高度から察して約5800m位だと思います。詳しくはLOが地図を見せてくれるとのことでその時正確な高度が判かると思います。又、我々がファブランに登った時、メイン・ピークに滋賀隊の赤旗が立っているのを見ております。又シリ・バルバットは初登頂だと思いますが、私が持っていたカメラは、丁度シリ・バルバットの稜線で、ハンド・ストラップの付け根が欠落し、反対側の氷河に落ちた為に、この写真がなくなりました。

短い通信ですが、まずは帰着第一報とさせていただきます。尚東京へは11月初めに戻る予定です。 72・10・20

第八信 10月25日 ニューデリー発、

実行委員会の皆様お元気ですか、昨日10月24日にニューデリーに着きました。先日マナリより出した手紙と重複しますが、登山活動の概要を送ります。

9月12日 カムリンよりキャラバン、スタート

13日 6109m峰BC建設

20日 C1建設

- 23日 C 2 建設
- 27日 登頂体勢に入る為C 1 集結
- 28日 LOと協議の結果、下山の決定。撤収開始。
- 10月 2日 BC撤収
- 3日 ファブランBC建設
- 6日 C 1 建設
- 10月 11日 C 2 建設
- 12日 C 3 建設
- 13日 ファブラン最南峰及びシリ・バルバット登頂、
- 16日 BC撤収
- 23日 マナリ発

又東京着は11月5日、11PM頃(AI 310便)にて帰国の予定です。